

別紙様式

## 組織評価の改善状況報告書

平成26年 3月31日

評価会議議長 殿

農学研究科長

組織評価に関する実施要項第10に基づき、組織評価（自己評価及び外部評価）結果に係る要改善事項について、次のとおり平成25年度の改善状況を報告します。

要改善事項
農業の持続的発展を可能とする総合的な人間形成の方策が十分に提示されていない。
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、農学部全般の教育改革についての議論を開始した。平成28年度までにカリキュラム見直しを含め、指摘された事項について改善する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、学科改組を含む農学部全般の教育改革についての議論を開始している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
将来を担う人材育成のためのカリキュラム（林業も）
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、農学部全般の教育改革についての議論を開始した。平成28年度までにカリキュラム見直しを含め、指摘された事項について改善する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、学科改組を含む農学部全般の教育改革についての議論を開始している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
リーダーシップ・主体的・積極的な行動力の向上
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、農学部全般の教育改革についての議論を開始した。平成28年度までにカリキュラム見直しを含め、指摘された事項について改善する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、学科改組を含む農学部全般の教育改革についての議論を開始している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
語学力のさらなる向上・海外留学生数の増などの国際化
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、農学部全般の教育改革についての議論を開始した。平成28年度までにカリキュラム見直しを含め、指摘された事項について改善する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、学科改組を含む農学部全般の教育改革についての議論を開始している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
資格取得の奨励
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、農学部全般の教育改革についての議論を開始した。平成28年度までにカリキュラム見直しを含め、指摘された事項について改善する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、学科改組を含む農学部全般の教育改革についての議論を開始している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
次世代リーダーの育成強化の観点から、「農業経営」の専任指導者を採用
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
企画室（教育担当）におけるカリキュラム改革の議論の中で、その必要性を精査し、採用するかどうか決定する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、学科改組を含む農学部全般の教育改革の中で議論している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
アドミッションポリシーの再定義
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
企画室（教育担当）における議論の中で、カリキュラムや育てる人材像を変更する必要がある場合、アドミッションポリシーを再定義する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、学科改組を含む農学部全般の教育改革の中でアドミッションポリシーについても議論中である。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
任期制教職員の雇用問題については十分に配慮が必要
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年度に助教の任期付き雇用を撤廃した。
改善状況
改善済み
達成年度（予定を含む）
平成25年度

要改善事項
女性教員。女性指導者の数を増やす努力の継続
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
平成25年度に女性に限定した公募を行った。今後も努力は継続する。
改善状況
平成25年度に女性に限定した公募を行ない、平成26年4月1日付で女性教授を採用する。これで農学研究科5人目の女性教員となる。今後も努力は継続する。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
環境森林科学専攻の充足率の低さ
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
企画室（教育担当）において、学部教育の改革の議論と平行し、大学院教育ならびに、6年一貫教育について議論する中で、専攻の充足率の問題を検討する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）を立ち上げ、学科改組を含む農学部全般の教育改革の中で、専攻の充足率の問題を併せて検討している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
学生アンケートの回答率の低さ 農学部独自のアンケート
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
学部・研究科におけるFDのあり方について再検討する。その中で、真に必要な授業改善、カリキュラム改善に結びつくようなアンケートの内容、方式を検討していく。平成25年度に始めた教育カリキュラムの改革議論を進める中で、最終的には新カリキュラム内のPDCAサイクルの一環としてアンケートを位置づけ、今よりも実効性のあるアンケートを実施する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）での、学科改組を含む農学部全般の教育カリキュラム見直しの中で議論している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
教員の質の向上に積極的に取り組む
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
学部・研究科におけるFDのあり方について再検討する。その中で、真に必要な授業改善、カリキュラム改善に結びつくようなアンケートの内容、方式を検討していく。平成25年度に始めた教育カリキュラムの改革議論を進める中で、最終的には新カリキュラム内のPDCAサイクルの一環としてアンケートを位置づけ、今よりも実効性のあるアンケートを実施する。
改善状況
学部FD委員会で、FDカフェ@農学「教員同士で話しあおう」などの企画を行い、教員の質の向上に取り組み始めている。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
メンタルヘルスのへの能動的対応の強化
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
カリキュラム改革を行うにあたり、学生の就職先を強く意識した指導方針を確立するとともに、教育課程において学生のモチベーションの維持と高揚を図る方策を策定する。その方策の中でメンタルヘルス、就職支援等について検討する。
改善状況
平成25年度に、企画室（教育担当）での、学科改組を含む農学部全般のカリキュラム改革の中で、メンタルヘルスの対応について議論している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
就職支援情報の提供や交換・支援
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
カリキュラム改革を行うにあたり、学生の就職先を強く意識した指導方針を確立するとともに、教育課程において学生のモチベーションの維持と高揚を図る方策を策定する。その方策の中でメンタルヘルス、就職支援等について検討する。
改善状況
学部就職戦略室と学務係で実態を把握しており、指導教員とともにケアを実施している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
HPの訪問数の減少 改善工夫
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
HPの意義を再確認し、ニーズに即した情報を提供できるようにする。ただし、現段階で、HPの訪問数が減少したことについて、特に問題であるとは思っていない。
改善状況
理工系大学院の大きくくり化や学部の改組などを控えているため、大きな変更はできないが、HPの意義について評価・広報委員会で議論し、できるところから改善している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
就職留年問題 実態把握とそのケア
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
実態把握とケアは十分に行っている。就職留年に限って言えば、それほど数は多くなく、卒業研究単位を留保した学生のほとんどが、翌年には就職を決めて卒業している。
改善状況
就職戦略室と学務係で実態を把握しており、指導教員とともにケアを実施している。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

要改善事項
自習スペース・ラウンジの拡充
要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）
現在、農学棟を改築中であり、新棟が完成した段階で自習スペース・ラウンジは拡充される。
改善状況
平成25年度終了時にI期が完了し、自習スペースやラウンジが拡充されている。
達成年度（予定を含む）
平成28年度

<b>要改善事項</b>
授業アンケート結果 学生の主体的な学習への意欲の喚起面での評価が低い点 CAP制で変化の把握が必要
<b>要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）</b>
CAP制導入による変化よりも、農学部における教育カリキュラムの見直しをすることで、今後の人材育成のあり方について再検討をする中で、それぞれの授業の在り方並びに、授業の目的にあった「学生の主体的な学習を喚起する方策」を確定する作業が必要である。CAP制の導入は、現行カリキュラムでは、実験・実習の多い1年次における学習スタイルに変化は引き起こさない。2年生になって初めて、自己学習時間の確保の問題が発生するので、平成26年度における「変化の把握」は必要である。
<b>改善状況</b>
平成25年度に、企画室（教育担当）での、学科改組を含む農学部全般の教育カリキュラム見直しの中で、学生の主体的な学習を喚起する方策について議論している。
<b>達成年度（予定を含む）</b>
平成28年度

<b>要改善事項</b>
経済的支援が必要な留学生の増加に対して、学生宿舎の確保
<b>要改善事項に対する改善計画（実施時期を含む）</b>
留学生の寄宿舍については、基本的には全学対応すべき事項であり、農学部・研究科からも全学執行部に対して、引き続き留学生会館の建設を求めている。 農学研究科においては、今年度の秋季より開始した「グローバル農学人材育成コース」では、私費外国人留学生に対し、学部でアパートを借り上げ、それを提供することになっている。 また、今年度、文科省の国費留学生優先配置に申請すべく、書類を準備中である。
<b>改善状況</b>
グローバル農学人材育成コースで入学した私費外国人留学生に対し、農学研究科でアパートを借り上げ提供している。今後も継続する予定である。
<b>達成年度（予定を含む）</b>
平成28年度